

「魅力ある地域づくりに向けて」(奈良県・天理市南檜垣地区)

1 地区の特徴・状況、課題

天理市は奈良県の北中部に位置し、市の東部は大和高原が広がる山間地域、西部は奈良盆地に含まれる平坦地域となっている。

南檜垣地区では、伝統のある茄子栽培、施設園芸によるトマト・水稻・小麦栽培などの農業経営が行われてきた。近年では、農家の高齢化や後継者不足に伴って耕作放棄地が発生するようになり、大和の原風景が損なわれつつあった。



2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○農事組合法人（南檜垣営農組合）と認定農業者及びその他の担い手が主たる担い手として地域農業を担っている。

○南檜垣営農組合を中心として、麦、大豆、米（減農薬でのブランド米）、味噌・煎り豆、きな粉の加工（6次産業化）などの生産を行い、朝市を開催するなど新たな販路形成に取り組んでいる。

○多様な人材（外部オペレーターや農業の手伝い）を受け入れることができる体制づくり（魅力ある地域づくり）を進める。



3 活動（取組と工夫）の結果

南檜垣営農組合は、地区内の農地を保全し、耕作放棄地を出さずに将来に渡って営農を続けるため、米・小麦・大豆を中心に作付けし、地域の力を集結して新たな農業のあり方に挑戦。親子3代が暮らしていける村を目指して、新製品の開発など、地域の活性化に取り組んでいる。